

S・M・C

Shizuoka Medical Communication

全国模擬患者学研究大会に参加して



去る平成15年10月12日、都内聖路加看護大学にて、「第1回全国模擬患者学研究大会」が開催され、医療関係者など各方面から、200名を超える参加者があり、大規模な大会となりました。わがSMCからも9名が参加し、各講演やプレゼンテーションを拝聴してきました。

基調講演では、聖路加国際病院理事長の日野原重明氏によって、日本の模擬患者(SP)学の歴史、SP活用の動き、SPの効果や功罪などが語られました。講演後、SPが痴呆に活かせるかという質問に対し、「痴呆とは、残っている機能や能力をどう活かすかが重要であり、会話の中でそれを引き出す楽しみを見つけるべきだ」という興味深い見解が得られ、誰にも訪れる老いを考えると、たいへん考えさせられるものでした。

続く課題講演では、岐阜大学医学部助教授の藤崎和彦氏によって、ロールプレイとSPの違い、欧米でのSP教育のタイプの違い、SPの利点、SPに求められる資質などSPに関する全体像が語られました。わがSMCは藤崎氏の指導のもとで活動しており、SPの原点とも言える倫理的かつ基本的な説明は、SP初心者にとってたいへんわかりやすい内容でした。

午後のプレゼンテーションでは、看護教育従事者、SPの研究普及者、医学部教員、SP養成センター、SP派遣団体、SP体験者など8人の代表者が、それぞれの立場からSPの実態や養

成における現状について、単純な日ごろの活動報告だけではない多くの貴重な経験や研究に基づいた報告をされました。興味深い実態と今後に向けた様々な課題が投げかけられ、これから飛躍しようとしている我々SMCのようなSP団体にとって、たいへん有意義な内容でした。

SP1年生から見て…

私は平成15年9月からSMCに参加したSP1年生です。定例会や実際のセッションに参加し見聞を広めている段階で、このようなアカデミックな大会に参加できたいへん幸運でした。SPの基礎から実態までを短時間に学ぶ事ができたうえ、その道の第一人者達から語られるお話は、どれも興味深いものばかりでした。特に医療者、その養成者、SP研究者、SP等、SPに対するさまざまな角度から貴重な意見を聴くことができました。

これからも多くのことを学び、SPに求められる能力を磨き、医療スタッフの養成に一役かうことのできる優秀なSPになろうと、決意を新たにしました。

医療関係者から見て…

大会では、医療者が患者とのより良いコミュニケーションをとり、患者中心の医療を展開するために医学教育及び看護教育の場面において、SPを使った医療面接が数多く行われている状況の報告がありました。

実際の医療面談では、ほとんどの場合患者よりフィードバックがなく過ぎてしましますが、SPを使ったシミュレーションでは色々な考えを持ったSPより率直なフィードバックを受けることができるとの発表を聞き、深く感動しました。

SPとしてはまだ駆け出しですが、患者役としての素直な気づきを、医療者の意識向上につなげられるよう、自分自身も学んでいきたいと感じました。

(宮本・小澤)

接遇研修に模擬患者を…。



静岡県立総合病院では、数年前より患者サービス向上のために、接遇研修を行っています。一人の職員の対応によって、その病棟の評価が決まるといっても過言ではないといわれている現在です。病院としての取り組みの一つとして、看護部でも委員会を発足しています。

15年度の接遇委員会の目標は、

- ①看護職員の接遇意識の向上を図り、患者の満足度を高めること。
- ②患者の苦言に耳を傾け、誠意を持って対応すること。

以上の2項目です。

私自身SMCの会員であり、SMCでの活動を行っておりますので、実際の活動としてロールプレイを企画しました。そのロールプレイに模擬患者を導入することにより、内々の研修ではない緊張感や、一般の人の意見が聞けることを予想し、より勉強となると考え、取り入れる事にしました。全職員を対象にこの研修を6回行いました。

結果としては、

参加率は平均63.97%であり、研修終了後のアンケートでは、①患者のペースを考慮したり②目線を合わせたり③ゆっくり話すなどが大切であるという傾聴の基本を学ぶことができたとい

う感想が聞かれました。患者の気持ちをくみ取り共感し、ねぎらいの言葉かけや、安心して話せる雰囲気を作ることの大切さも理解できました。SMCの力を借り、より実践的な研修となりました。

最後にもう一言

浜松医科大学や富士市立病院の看護部でも、同様な研修を行ない、良い結果が得られています。また、静岡県立大学の看護学部では、教育の一環としてコミュニケーションを学習として取り入れていただき、私達も非常に勉強になりました。SMCの成長は市民の皆様への要請に答えること

によって成り立つと考えています。

接遇研修：従来、接遇研修は、お客様サービス向上の目的で接客業を中心として行われていましたが、近年、質の高い医療サービスが求められる様になり、病院・医院等で、「患者サービスにおけるスタッフ教育」が盛んに行われるようになりました。各病院では様々な方法で取り組んでいますが、模擬患者のロールプレイも研修プログラムとして採用される事が多くなりました。



県立総合病院看護師接遇委員

「ロールプレイによる インフォームド・コンセント研修会」に参加して

平成16年2月3日、ファルマバレーセンターが主催した「ロールプレイによるインフォームド・コンセント研修会」が開催され、私たち静岡医療コミュニケーション研究会は、浜松医科大学の先生方とともに協力者として参加しました。

研修会には、静岡県内の病院に勤務する24名が参加しましたが、治験コーディネーター（以下CRCと略す）として活躍している方は19名で、未経験者5名でした。職種の内訳は、薬剤師15名、看護師6名、臨床検査技師3名です。

研修は浜松医科大学の山田助教授による医療倫理についての講義の後に、模擬患者を相手に研修者がCRCとして対応するロールプレイが行われました。私たちは模擬患者として参加し、患者としての感想を伝えました。また、ロールプレイを見ての感想をグループ討議し、更に全体で意見交換したことで、CRC義務を客観的に評価することができたと思います。

研修後に行ったアンケート調査では、回答した23名全員が、今回の研修が今後の仕事に役立つと思い、このような研修会にまた参加したいと述べています。具体的に研修者の意見をいくつか紹介します。

- 普段、他人のやり方を見るチャンスがない為、参考になりました。
- 患者さんとのコミュニケーションの難しさがわかりました。
- 患者さんの意見を引き出すのに、いろいろな質問方法があることを勉強しました。
- 患者さんの話を聞いて気持ちを理解することの大切さを知りました。
- 患者さんの立場を優先に考えて行動していきたいと思います。

私たち静岡医療コミュニケーション研究会は、今後も皆さんのお役に立てるような活動を続けていきたいと考えています。

ファルマバレーセンター：

静岡県が進めるファルマバレー構想事業の支援機関として設置され、「医療の質の向上」「県民の健康の保持・増進」のために、静岡県治験ネットワークを運営しています。

インフォームド・コンセント：

患者さんが治療をうけるにあたって、十分な説明を受け、患者さん自身が理解し、納得した上で同意するという意味です。

治験：薬の候補となる物質を用いて、“医薬品”として国の承認を得るための試験を「治験」といいます。信頼できる成績を収集するために厳しいルールが定められています。

治験コーディネーター

（CRC；Clinical Research Coordinator）：

治験の厳しいルールを守り、円滑に治験が実施されるように全体をコーディネートする人をいいます。看護師、薬剤師、検査技師など多くの職種が関わります。

（鈴木）



平成15年度私たちの活動

月 日	研 修 名	会 場	備 考
4月12日(土)	総会準備	NPOセンター	
4月19日(土)	SP練習会	研究会事務所	
4月20日(土)	平成15年度総会	アイセル21	
5月 8日(木)	県立大薬学部セミナー	静岡県立大学	SP 1名
5月15日(木)	市立島田市民病院事前打合せ	市立島田市民病院	会員 2名
6月17日(火)	県立大看護学部セミナー	静岡県立大学	SP 4名
7月 1日(火)	臨床医のためのSPによるコミュニケーションセミナー	市立島田市民病院	藤崎先生
7月 3日(木)	看護職員研修	浜松医科大学附属病院	SP 1名
7月26日(土)	臨床研修医試験	藤枝市立総合病院	SP 2名
8月 1日(土)	第9回医学教育セミナー	岐阜大学医学部	会員10名
8月 2日(日)	〃	〃	〃
9月 6日(土)	院内研修	藤枝市立総合病院	SP 2名
9月26日(金)	看護職員の接遇研修	県立総合病院	SP 1名
9月27日(日)	臨床研修医試験	藤枝市立総合病院	SP 2名
10月12日(日)	第1回全国模擬患者学研究大会	聖路加看護大学	会員 9名
10月18日(土)	院内研修	藤枝市立総合病院	SP 2名
10月20日(月)	看護職員研修	浜松医科大学附属病院	SP 2名
10月21日(火)	CRC研修	浜松医科大学附属病院	SP 2名
10月27日(月)	看護職員の接遇研修	県立総合病院	SP 1名
11月 1日(土)	院内研修	藤枝市立総合病院	SP 2名
11月18日(火)	CRC研修	浜松医科大学附属病院	SP 2名
11月21日(金)	看護職員の接遇研修	県立総合病院	SP 1名
12月 2日(火)	CRC研修	浜松医科大学附属病院	SP 2名
12月 3日(水)	県立大学薬学部セミナー	静岡県立大学	SP 1名
12月 8日(月)	看護職員の接遇研修	県立総合病院	SP 1名
12月13日(土)	CRC研修事前打合せ	NPOセンター	会員 2名
1月27日(火)	看護職員の接遇研修	県立総合病院	SP 1名
1月31日(日)	OSCE練習会	研究会事務所	
2月 3日(火)	ロールプレイによるインフォームドコンセント研修会	クーポール会館	SP 5名
2月 8日(日)	OSCE練習会	研究会事務所	
2月11日(水)	OSCE練習会	研究会事務所	
2月21日(土)	OSCE	浜松医科大学	SP 10名
2月27日(金)	看護職員の接遇研修	県立総合病院	SP 1名
3月13日(土)	看護職員の接遇研修	富士宮市立病院	SP 1名・ファシリテーター1名

その他月1回の定例会を開いています。

この会に興味のある方は下記事務所までご連絡ください

発行

静岡医療コミュニケーション研究会事務所 代表 森田 みつ子

〒420-0882 静岡市安東1-22-25 TEL・FAX 054-248-0348

E-mail mrtmtk2000@hotmail.com